

2018年5月17日

近畿労働金庫
理事長 山下 博司 様

「2017年度近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

2017年度近畿ろうきんNPOアワード審査委員会
審査委員長 福澤 邦治

去る2018年4月13日に開催された「2017年度近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

1. 審査にあたって

今回審査にあたっては、2018年1月31日の募集締め切りの後、当金庫の事務局から事前送付された応募書類をもとに各委員が事前の書類審査を行ったうえで、4月13日に開催した審査委員会において各受賞団体を選考しました。

審査委員会には審査委員5名全員が出席し、互選により審査委員長を選出したうえで、審査委員会指針に則って合議を進め、大賞1団体、優秀賞2団体、奨励賞6団体（内1団体は10万円）とすることを確認し選考しました。さらに、小規模な団体向けのはぐくみコースから、はぐくみ賞として3団体を選考しました。

審査委員は下記の通りです（敬称略）。

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

- 審査委員長 福澤 邦治 （近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
- 審査委員 岡本 瑞子 （特定非営利活動法人子どもNPO和歌山県センター 理事長）
- 山縣 文治 （関西大学 人間健康学部 教授）
- 吉村恵理子 （公益財団法人コープともしびボランティア振興財団 事務局長）
- 浦田 和久 （近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

2. 決定、総評

本アワードは子育て支援をテーマに実施し、近畿一円から総計52件ものプラン応募がありました。そのうち、新しい団体や活動規模は小さくても地域のために頑張っている団体を応援する「はぐくみコース」の応募9件が含まれています。どの応募も甲乙つけがたい状況で、審査委員会での助成団体の決定にはたいへん熟慮を要しました。

2017年度の応募内容の特徴は、前年度に引き続き、今日の社会状況を強く反映して、「子どもの貧困」をテーマとし、深刻な経済事情にある子育て環境を支援する事業企画が目立ちました。また、社会のセーフティネットが届かない子どもたちに着目した取り組みや、多文化共生をめざす取り組みなど、さまざまな分野からの事業企画が提出され、本アワードの

存在が、対象となる幅広い団体に知られてきた結果だといえます。また、はぐくみコースには、小規模な団体であるものの今後の成長に期待できるプランの応募があり、少ない財源の中で真摯に活動を進める市民活動団体にとって、本アワードのような助成が必要であることを改めて確認することができました。

審査にあたっては、事業の「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」などの項目に加えて、「組織の継続性」や「運営体制」、「活動歴」や「市民主体性」の項目も基準とし、審査委員の真摯な論議を経て選考しました。はばたきコースでは、〈大賞〉・〈優秀賞〉を受賞した3団体は、企画内容の社会性や実現性に加え、それぞれの特色を活かした創意工夫や今後の発展性が高く評価されました。この3団体とは僅差ではありましたが、社会性・独自性などの点で高く評価された6団体を奨励賞に決定しました。はぐくみコースでは、4団体選考を予定していましたが、応募団体が9団体と少数にとどまっていたことなどから、今回は3団体の選考としました。減らした1団体分のはぐくみ賞(10万円)は、はばたきコースの応募の中から奨励賞(10万円)を1団体追加選考することとしました。(※各受賞団体の事業プランや選考の講評については、次ページ以降をご確認ください)

また、この他、選に漏れた団体についても、その事業や熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを付け加えておきます。

3. 今後への提言として

「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用の促進が、子どもたちの未来と地域の子育て支援に連動するという仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして実施され、今回で13回を数えました。

応募プランは、いずれも社会的ニーズに基づいた切実なものばかりで、「子育て支援」が勤労者にとって共通する社会テーマであり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える《ろうきん運動》にとっても大きなテーマであり、まさに《ろうきん》に相応しい事業であると考えています。

審査委員一同として、「近畿ろうきんNPOアワード」のような《ろうきん》の特性を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を継続いただきたいと強く要請する次第です。2018年度からスタートした金庫の第7次中期経営計画では、経営ビジョンの実現に向けた4つの柱の1つ、「共助と共感の輪の拡大」を通して「はたらくあなたへ笑顔を届けに」が掲げられています。このためのアプローチの一つとして、本アワードでの「子どもたちの未来の応援」はまさに相応しいテーマだと実感します。また、会員推進機構と一体となって進む《ろうきん》として、社会に役立つこのようなプログラムが実践されていることを各会員労働組合にも是非しっかりと伝えていただきますようお願いいたします。